

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

平成27年12月
江別市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	19	1,013
中学校	第3学年	8	1,058
合 計		27	2,071

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ・主として「知識」に関する問題～国語A、算数・数学A
 - ・主として「活用」に関する問題～国語B、算数・数学B
 - ・理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題
- (2) 質問紙調査
 - ・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
 - ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

5 調査期日

平成27年4月21日(火)

II 結果の概要

1 教科に関する結果の概要

(1) 小学校

平均正答率は、国語A・B、算数A・B、理科の全教科で北海道を上回り、国語Aは1.1ポイント、国語Bは0.5ポイント全国を上回っています。算数Aは0.4ポイント、算数Bは0.6ポイント全国を下回っています。理科は1.1ポイント全国を上回っています。

(2) 中学校

平均正答率は、国語A・B、数学A・B、理科の全教科で北海道を上回り、国語Aは0.8ポイント、国語Bは0.1ポイント全国を上回っています。数学Aは0.5ポイント、数学Bは0.9ポイント全国を下回っています。理科は2.9ポイント全国を上回っています。

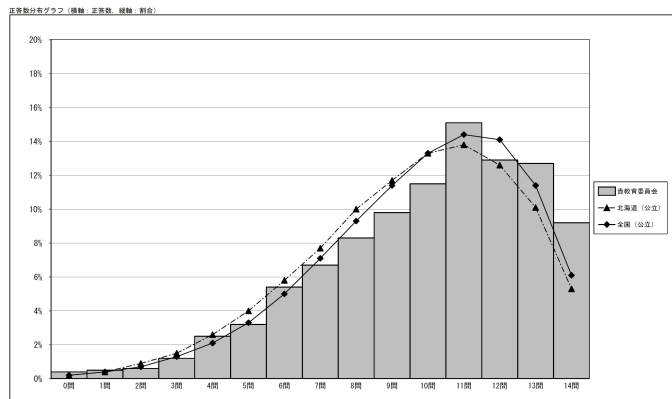
2 質問紙調査に関する結果の概要

- 平日に3時間以上テレビやビデオ見る割合は、小学校6年生は1.1ポイント、中学校3年生は1.2ポイント全国平均を上回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、中学校3年生は2.1ポイント全国平均を下回っていますが、小学校6年生は1.5ポイント上回っています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

○ 算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は全国平均を大きく上回り、ICT（情報通信技術）を活用した授業が積極的に行われています。

Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



国語A	平均正答数	平均正答率
江別市	10.0/14	71.1
北海道	9.5/14	68.1
全 国	9.8/14	70.0

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	1	50.6	47.4	53.0
書 く	1	86.8	84.0	86.0
読 む	4	60.9	55.0	55.2
伝統的な・・・	9	76.6	75.0	77.2

複数の領域にまたがる設問もあります。

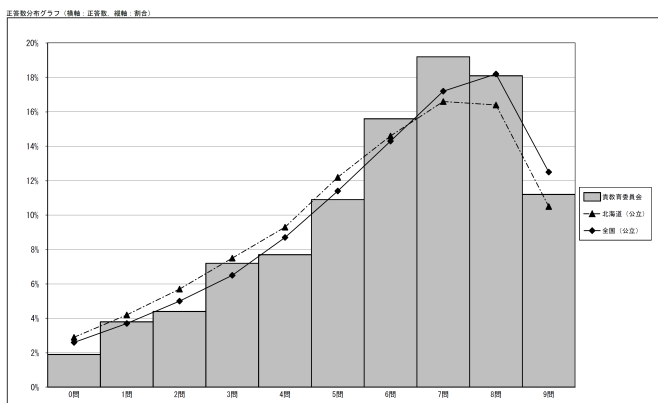
<結 果>

- 平均正答率は71.1%で、北海道を3.0ポイント、全国を1.1ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「書くこと」が0.8ポイント、「読むこと」が5.7ポイント、全国を上回り、「話すこと・聞くこと」が2.4ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.6ポイント、全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「文の主語として適切なものを選択する」
 - ・文の基本的な構成である主語と述語、修飾と被修飾との関係について基礎的な理解ができるように指導する必要があります。
- 「聞き方の説明として適切なものを選択する」
 - ・話し手の目的や意図について伝えたい内容を捉え、理解しながら聞くことができるように、言語活動を工夫して設定し指導する必要があります。

2 小学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



国語B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.9 / 9	65.9
北海道	5.7 / 9	63.0
全 国	5.9 / 9	65.4

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	0			
書 く	6	61.6	58.4	61.1
読 む	6	68.1	65.4	68.1
伝統的な・・・	0			

<結 果>

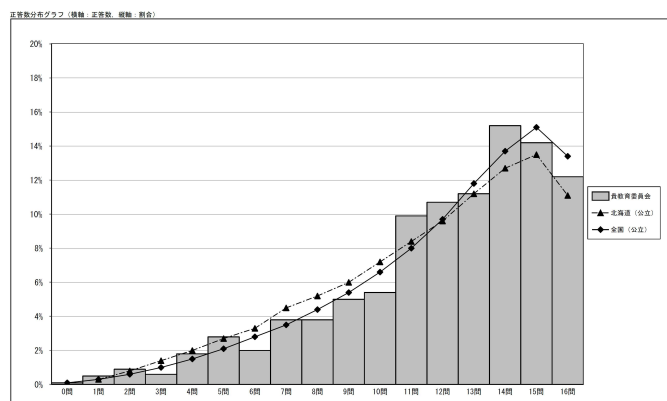
- 平均正答率は65.9%で、北海道を2.9ポイント上回り、全国を0.5ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「読むこと」が全国と同様、「書くこと」が全国を0.5ポイント上回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「楽器の分担の決め方について、楽器の分担図を基にして書く」
 - ・学校生活でも仕事の役割分担を決めることがあるが、図表にまとめる場合の考え方を整理して文章に書くことができるように指導する必要があります。
- 「声に出して読むときの工夫とその理由を書く」

- ・物語の場面や状況、登場人物の気持が伝わるように、文章を読むときの声の大きさやはやさについて工夫して音読できるように指導する必要があります。

3 小学校 「算数A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数A	平均正答数	平均正答率
江別市	12.0 / 16	74.8
北海道	11.6 / 16	72.3
全 国	12.0 / 16	75.2

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
数と計算	7	79.2	77.0	80.1
量と測定	3	67.1	66.5	71.3
図 形	4	68.5	62.6	64.5
数量関係	2	83.5	83.6	84.9

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結 果>

- 平均正答率は74.8%で、北海道を2.5ポイント上回り、全国を0.4ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「図形」が4.0ポイント全国を上回り、「数と計算」が0.9ポイント、「量と測定」が4.2ポイント、「数量関係」が1.4ポイント全国を下回っています。「量と測定」の領域に課題が見られます。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

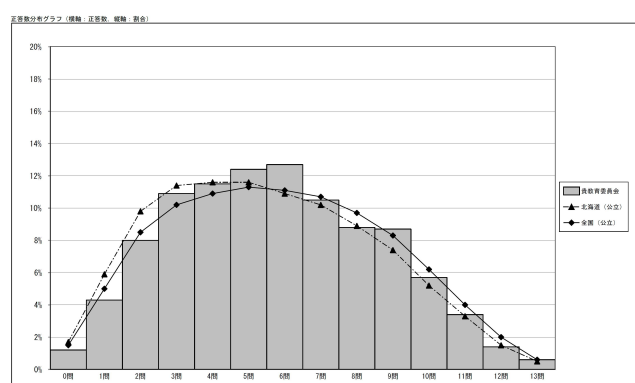
■「 $5 \div 6 \div 7$ を計算する」

- ・乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、計算ができるよう指導する必要があります。

■「分度器の目盛りを読み 180° より大きい角の大きさを求める」

- ・角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、拡大した図形や縮小した図形、合同の図形などについて、分度器を用いて角の大きさを測定する技能の定着を図る指導をする必要があります。

4 小学校 「算数B」 <正答数分布グラフ>



<結 果>

- 平均正答率は44.4%で、北海道を1.9ポイント上回り、全国を0.6ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「数と計算」が全国を0.9ポイント上回り、「量と測定」が0.9ポイント、「図形」が0.2ポイント、「数量関係」が2.7ポイント下回っています。「数量関係」の領域に課題が見られます。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■「20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く」

- ・百分率や割合の考え方を日常の生活場面で役立つ実感がもてるように、学んだことを活用する学習活動を工夫する必要があります。

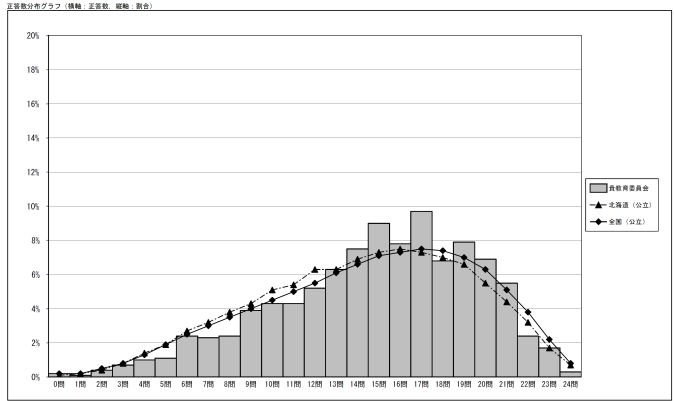
算数B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.8 / 13	44.4
北海道	5.5 / 13	42.5
全 国	5.9 / 13	45.0

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
数と計算	4	43.3	40.7	42.4
量と測定	3	40.8	39.0	41.7
図 形	7	45.4	43.9	45.6
数量関係	3	40.3	38.2	43.0

■「合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、アの角が30° になるわけを書く」

- ・図形の合同や角について理解を深め、図形の性質を見いだして、ペアやグループで話し合う言語活動を取り入れて指導をする必要があります。

5 小学校 「理科」



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

理科	平均正答数	平均正答率
江別市	14.9 /24	61.9
北海道	14.2 /24	59.3
全 国	14.6 /24	60.8

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
物質	7	62.0	58.2	57.4
エネルギー	6	67.1	63.3	65.6
生命	6	60.5	58.8	61.2
地球	7	56.5	54.9	57.8

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結 果>

- 平均正答率は61.9%で、北海道を2.6ポイント上回り、全国を1.1ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「物質」が4.6ポイント、「エネルギー」が1.5ポイント全国を上回り、「生命」が0.7ポイント、「地球」が1.3ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

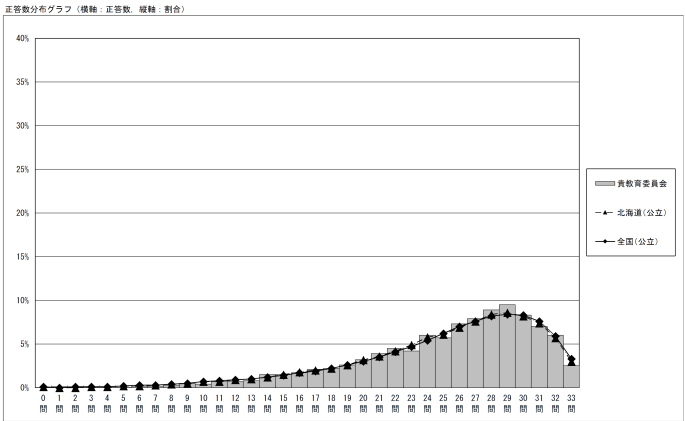
■「顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ」

- ・顕微鏡を用いて観察する場面を設定して、観察の目的をよく考えて実験器具の操作ができるように指導する必要があります。

■「水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く」

- ・実験の結果から考えられることや結果を分かりやすく表現するための図表やグラフなどの作成について、ペアやグループで話し合う学習活動を設定して指導する必要があります。

6 中学校 「国語 A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語 A	平均正答数	平均正答率
江別市	25.3 /33	76.6
北海道	25.0 /33	75.8
全 国	25.0 /33	75.8

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	4	81.1	79.8	79.7
書 く	5	75.5	74.3	73.6
読 む	5	85.5	85.4	86.1
伝統的な・・・	19	73.5	72.9	72.9

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結 果>

- 平均正答率は76.6%で、北海道を0.8ポイント、全国を0.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「話すこと・聞くこと」が1.4ポイント、「書くこと」が1.9ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.6ポイント全国を上回っており、「読むこと」は0.6ポイント下回っています。平均正答率が全国を上回っており、国語に関する基礎的・基本的な知識や技能は身に付いていると思われます。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

■「棒グラフの 部の変化の内容を適切に書く」

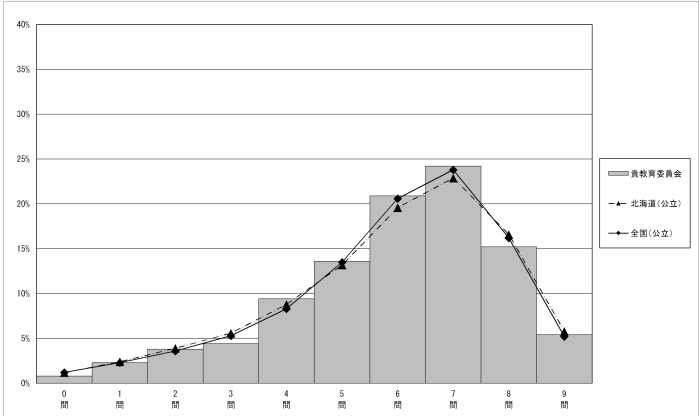
- ・図表やグラフなどからどんなことが読みとれるか、得られた情報を整理して分かりやすく説明するために、伝えたい内容を効果的に表現する文章の書き方について指導する必要があります。

■「文章について説明したものとして適切なものを選択する」

- ・筆者の考えや気持ちなどなどについて書かれた説明的な文章について、根拠や例の提示の仕方など効果的に伝えるためにどのような工夫があるか考えながら読む指導をする必要があります。

7 中学校 「国語B」 ＜正答数分布グラフ＞

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



国語B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.9/9	65.9
北海道	5.9/9	65.7
全 国	5.9/9	65.8

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	3	72.1	72.6	72.2
書 く	3	35.9	37.5	36.7
読 む	6	62.8	62.3	62.6
伝統的な・・・	0			

＜結 果＞

- 平均正答率は65.9%で、北海道を0.2ポイント、全国を0.1ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「読むこと」が0.2ポイント全国を上回っており、「書くこと」が0.8ポイント、「話すこと・聞くこと」が0.1ポイント全国を下回っています。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

■「演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結びつけて書く」

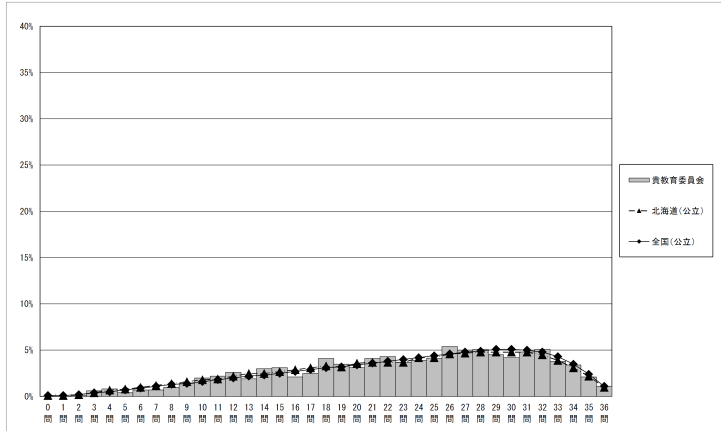
- ・自分の考えや気持ちなど伝えたい事柄について、根拠を明確にして内容が効果的に伝わるような書き方をするように指導する必要があります。

■「雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する」

- ・文章に記載されている内容が、筆者の意見なのか事実の説明なのかを整理し、要旨を理解できるように指導する必要があります。

8 中学校 「数学A」 ＜正答数分布グラフ＞

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学A	平均正答数	平均正答率
江別市	23.0/36	63.9
北海道	22.7/36	63.0
全 国	23.2/36	64.4

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
数と式	12	66.1	65.6	67.7
図 形	12	63.9	62.5	63.4
関 数	8	62.1	60.9	61.7
資料の活用	4	61.1	61.1	63.0

複数の領域にまたがる設問もあります。

＜結 果＞

- 平均正答率は63.9%で、北海道を0.9ポイント上回り、全国を0.5ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「図形」が0.5ポイント、「関数」が0.4ポイント全国を上回り、「数と式」が1.6ポイント

ト、「資料の活用」が1.9ポイント全国を下回っています。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

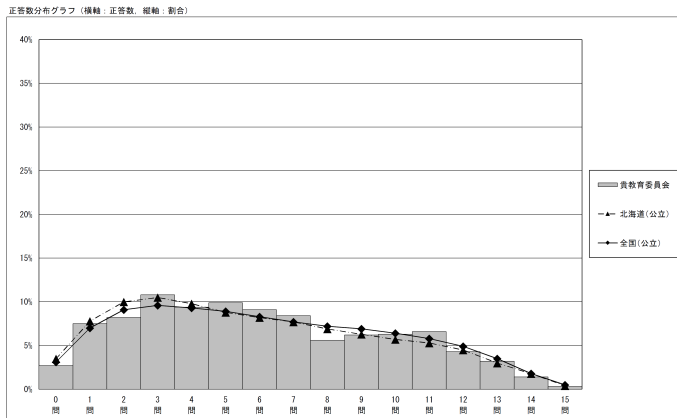
■「 $5x-x$ を計算する」

- ・文字を用いた数量関係や法則を読みとる能力を高め、文字を用いた一次式の加法や減法の計算が確実にできるように指導する必要があります。

■「連続する3つの整数のうち最も小さい整数を n とすると、それらの和が中央の整数3倍になることを、 n を用いた式で表す」

- ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を説明できることを理解し、文字を用いて説明する言語活動を取りいれて指導する必要があります。

9 中学校 「数学B」 ＜正答数分布グラフ＞



数学B	平均正答数	平均正答率
江別市	6.1/15	40.7
北海道	6.0/15	39.7
全 国	6.2/15	41.6

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
数と式	4	62.0	60.2	63.2
図 形	4	38.3	37.1	39.0
関 数	5	29.9	29.3	30.7
資料の活用	2	30.0	30.2	31.2

＜結 果＞

- 平均正答率は40.7%で、北海道を1.0ポイント上回り、全国を0.9ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は北海道を「資料の活用」が0.2下回っていますが、他の3領域は上回っています。「数と式」が1.2ポイント、「図形」が0.7ポイント、「関数」が0.8ポイント、「資料の活用」が1.2ポイント、全国を下回っています。数学に関する活用力にやや課題があると思われます。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

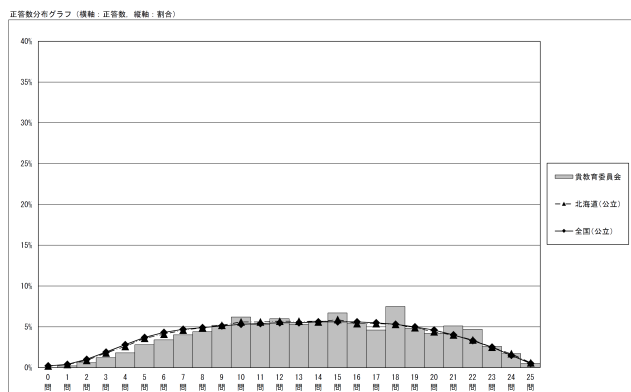
■「連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する」

- ・具体的な事象の中に数量の関係をみだし、解決するための見通しをたて、文字式や言葉を用いて根拠を説明する言語活動を設定して指導する必要があります。

■「底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する」

- ・問題解決のために、表やグラフなど用いるものやその使い方について数学を活用する方法を考え、問題解決の過程を振り返る指導をする必要があります。

10 中学校 「理科」



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

理 科	平均正答数	平均正答率
江別市	14.0/25	55.9
北海道	13.3/25	53.3
全 国	13.3/25	53.0

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
物理	7	52.3	49.3	48.9
化学	7	58.1	55.9	56.2
生物	6	65.5	62.1	62.2
地学	6	49.6	47.7	46.4

複数の領域にまたがる設問もあります。

＜結 果＞

- 平均正答率は55.9%で、北海道を2.6ポイント上回り、全国を2.9ポイント上回っています。

- 学習指導要領の領域の平均正答率は「物理」が3.4ポイント、「化学」が1.9ポイント、「生物」が3.3ポイント、「地学」が3.2ポイント、すべての領域で全国を上回っています。「理科」に関する基礎基本が身についていると思われます。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ」
- ・ 自然の事物や現象について、科学的な探求活動を通して学習したことを、日常生活に関連づけて活用できるように指導する必要があります。

IV 質問紙調査の結果

1 「児童・生徒質問紙」

(1) 家庭の生活

① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・ 小学校6年生 96.4%で、昨年度より1.3ポイント高く、全国平均より0.8ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 93.5%で、昨年度より0.7ポイント高く、全国平均と同様。

② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・ 小学校6年生 80.8%で、昨年度より1.4ポイント高く、全国平均より1.3ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 79.0%で、昨年度より4.4ポイント高く、全国平均より3.8ポイント高い。

児童生徒の朝食摂取や就寝時刻については、昨年より改善傾向にあり、小学校6年生、中学校3年生は全国平均を上回るか同様の数値となっています。しかし、朝食を「あまり食べていない」、「全く食べていない」割合が4～7%おり、学校、家庭、地位等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

(2) 自己肯定感

① 難しいことでも「失敗を恐れなくて挑戦している」、「どちらかといえば挑戦している」

- ・ 小学校6年生 75.9%で、昨年度より3.3ポイント高く、全国平均より0.5ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 71.7%で、昨年度より1.9ポイント高く、全国平均より2.9ポイント高い。

② 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・ 小学校6年生 79.9%で、昨年度より8.4ポイント高く、全国平均より3.5ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 66.5%で、昨年度より3.2ポイント高く、全国平均より1.6ポイント低い。

③ 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・ 小学校6年生 89.2%で、昨年度より4.2ポイント高く、全国平均より2.7ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 72.0%で、昨年度より0.3ポイント高く、全国平均より0.3ポイント高い。

難しいことへの挑戦意欲や自己肯定感、将来の目標等については、小学校6年生、中学校3年生はいずれも昨年度を上回っています。自己肯定感について、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は下回っていますが差を縮めています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見付けて伝えたり、将来就きたい仕事や夢について考えさせたりする指導が全国より高い割合で実施されており、そのことが、子ども達の自己肯定感の向上につながっていると思われます。今後も家庭や地域等と連携しさらに充実する必要があります。

(3) テレビの視聴やゲーム

① 平日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見る(テレビゲームは除く)

- ・ 小学校6年生 37.2%で、昨年度より0.4ポイント低く、全国平均より1.1ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 31.7%で、昨年度より1.4ポイント高く、全国平均より1.2ポイント高い。

② 平日にテレビゲームを3時間以上している(コンピュータ、携帯式ゲームも含む)

- ・ 小学校6年生 18.5%で、昨年度より0.6ポイント低く、全国平均より1.5ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 18.4%で、昨年度より1.4ポイント低く、全国平均より2.1ポイント低い。

テレビ等の視聴やゲームの時間については、小学校6年生は前年度を下回り改善の傾向ですが、全国平均より上回っています。ゲームの時間については、中学校3年生は全国平均より下回っていますが、テレビ等の視聴は前年度より増えています。テレビ等を見たりゲームを行ったりする時間帯や時間を家庭内で約束として決めるなど、家庭と一体となって学習時間の確保や望ましい生活習慣を確立する取組を進める必要があります。

(4) 学校の授業以外の勉強

① 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 62.0 %で、昨年度より 9.1 ポイント高く、全国平均より 0.7 ポイント低い。
- ・中学校3年生 66.0 %で、昨年度より 4.4 ポイント高く、全国平均より 3.0 ポイント低い。

② 休日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 58.7%で、昨年度より 5.8 ポイント高く、全国平均より 2.0 ポイント高い。
- ・中学校3年生 70.5%で、昨年度より 1.7 ポイント高く、全国平均より 1.8 ポイント高い。

③ 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校6年生 71.7 %で、昨年度より 3.5 ポイント高く、全国平均より 8.9 ポイント高い。
- ・中学校3年生 54.6%で、昨年度より 3.4 ポイント高く、全国平均より 5.8 ポイント高い。

家庭学習については、小・中学生ともに自分で計画を立てて、勉強している割合は全国平均を上回っています。小・中学生ともに平日に1時間以上家庭学習をしている割合が全国平均を下回っていますが、昨年より改善されています。家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め毎日取り組むようにする必要があります。

(5) 学校生活

① 学校に行くのは「楽しいと思う」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 85.4%で、昨年度より 1.0 ポイント高く、全国平均より 1.6 ポイント低い。
- ・中学校3年生 79.9%で、昨年度より 0.4 ポイント高く、全国平均より 2.2 ポイント低い。

② 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、「うれしかった」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 89.4%で、全国平均より 3.3 ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.7%で、全国平均より 3.5 ポイント高い。

学校に行くのは楽しいと思う割合は、小・中学生ともに2ポイント程度全国平均を下回っていますが、前年度より増加しています。

学校では、より分かりやすい授業の実施や行事等で協力してやり遂げる喜びを味わえるようにするほか、受容的、共感的な人間関係の醸成、集団における所属感や成就感、自己有用感を一層高めていく必要があります。

(6) 社会に対する興味・関心

① 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」、「どちらかといえば、関心がある」

- ・小学校6年生 64.5 %で、昨年度より 3.1 ポイント高く、全国平均より 0.6 ポイント高い。
- ・中学校3年生 58.0%で、昨年度より 0.5 ポイント高く、全国平均より 2.1 ポイント高い。

② 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校6年生 9.0 %で、昨年度より 0.7 ポイント低く、全国平均より 0.3 ポイント高い。
- ・中学校3年生 7.6%で、昨年度より 2.2 ポイント低く、全国平均より 0.8 ポイント高い。

社会に対する興味・関心については、小学校6年生、中学校3年生は全国平均をやや上回っています。新聞を「ほぼ毎日読む」児童生徒は、「ほとんど、または全く読まない」児童生徒と比べ、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向にあり、また、社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点からも、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

(7) 思いやり

① 人の気持ちが分かる人間に「なりたと思う」、「どちらかといえば、なりたと思う」

- ・小学校6年生 95.5%で、昨年度と増減がなく、全国平均より 1.6 ポイント高い。
- ・中学校3年生 94.9%で、昨年度より 0.2 ポイント高く、全国平均と同様。

② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校6年生 88.4%で、昨年度より 4.8 ポイント高く、全国平均より 6.6 ポイント高い。
- ・中学校3年生 76.6%で、昨年度より 3.2 ポイント高く、全国平均より 3.6 ポイント高い。

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を

上回っていますが、各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、人への思いやりや規範意識をはぐくむ道德教育を一層充実していくことが大切です。

(8) 読書習慣

① 読書は「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」

- ・小学校 6 年生 78.1%で、昨年度より 3.4 ポイント高く、全国平均より 5.3 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 74.7%で、昨年度より 0.1 ポイント高く、全国平均より 6.8 ポイント高い。

② 学校の授業時間以外に、「平日、1 日 30 分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校 6 年生 40.4%で、昨年度より 3.3 ポイント高く、全国平均より 2.7 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 33.3%で、昨年度より 1.0 ポイント低く、全国平均より 2.7 ポイント高い。

読書が好きな割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回っています。江別市の各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られています。

2 「学校質問紙」

(1) 学習態度、礼儀正しさ

① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

- ・小学校 6 年生 68.4%で、昨年度より 5.2 ポイント高く、全国平均より 29.9 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 100%で、昨年度より増減が無く、全国平均より 50.7 ポイント高い。

② 「礼儀正しいと思う」

- ・小学校 6 年生 42.1%で、昨年度より 5.3 ポイント低く、全国平均より 13.4 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 62.5%で、昨年度より 25.0 ポイント低く、全国平均より 22.7 ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」、「児童生徒は礼儀正しい」割合は、全国平均を大きく上回っています。各学校では、私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

(2) 長期休業中の学習サポート

① 前年度に、延べ「5 日以上実施した」

- ・小学校 6 年生 78.9%で、昨年度より 15.7 ポイント高く、全国平均より 51.3 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 75.0%で、昨年度より 25.0 ポイント低く、全国平均より 17.7 ポイント高い。

江別市の小・中学校では、夏休みや冬休みの長期休業中に全ての学校が 3 日以上の「学習サポート」を実施しています。また、5 日以上実施している学校の割合は全国平均を大きく上回っています。学習サポートは、全教職員と市で配置している学習サポート教員(退職教員)で行われており、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

(3) 家庭学習の課題(宿題)

① 前年度までに、国語の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校 6 年生 89.5%で、昨年度より 15.8 ポイント高く、全国平均より 3.4 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 50.0%で、昨年度より 37.5 ポイント高く、全国平均より 1.4 ポイント低い。

② 前年度までに、算数・数学の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校 6 年生 89.5%で、昨年度より 10.6 ポイント高く、全国平均より 2.0 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 62.5%で、昨年度より 12.5 ポイント高く、全国平均より 7.3 ポイント高い。

国語や算数・数学の宿題をよく与える割合は、小学校 6 年生は全国平均を上回り昨年よりも割合が増加しています。中学校 3 年生は数学の宿題をよく与える割合は、昨年よりも割合が増加し全国平均を上回り、国語については、昨年よりも割合が大幅に増加していますが、全国平均を下回っています。江別市の児童生徒は家庭で「自分で計画を立てて勉強している」、「学校の授業の復習をしている」割合は全国平均を上回り、「宿題をしている」割合も増加しています。学習内容を確実に定着させるためには、学校が宿題を計画的に与えるとともに、家庭において確実に取り組ませることが大切です。

(4) ICT を活用した授業

① 前年度、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用した授業を週1回以上行った

- ・小学校6年生 57.9%で、昨年度より増減が無く、全国平均より 36.4 ポイント高い。
- ・中学校3年生 25.0%で、昨年度より増減が無く、全国平均より 13.2 ポイント高い。

パソコンや電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市では、すべての学級に電子黒板を設置するなど、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、ICT を活用した授業を積極的に推進しています。